

## 第3章 新四条図書館の基本計画

### 1. 新四条図書館整備の検討経緯

#### (1) 四条図書館の現状

現四条図書館は、東大阪市立図書館の3館2分室と移動図書館2台の体制において、永和図書館、花園図書館と並び中核的な役割を担う図書館としてサービスを提供しています。

旭町図書館(平成9年1月開設)が耐震性の問題から閉館となり、平成28年6月に介護老人保健施設「四条の家」・東診療所の1階を改装して移転したことを機に、「四条図書館」に名称変更して開館しました。3館の中では最も小規模な図書館ですが、安岡正篤コーナーや子育て支援コーナーを設置しており、限られたスペースで企画展示や読み聞かせなどのイベントも実施しています。

【図表24】現四条図書館の概要

所在地	東大阪市南四条町1番1号
延床面積	689.3 m <sup>2</sup> (東部地域仮設庁舎1階部分)
構造	鉄筋コンクリート(地上5階)
開館時間	午前9時～午後9時
休館日	毎週月曜日(但し、その日が国民の祝日等の場合は開館) 図書整理期間
施設内容	一般開架、児童開架、新聞・雑誌、郷土・行政資料 CD、安岡正篤コーナー、子育て支援コーナー、その他

#### (2) 利用状況

##### ① 蔵書数

現四条図書館の蔵書数は154,616冊(令和4年度図書館年報より。以下同じ)であり、蔵書件数は、永和図書館(169,592冊)とほぼ同水準となっています。

一方で、蔵書のうち閉架冊数は約8.6万冊(約56%)であり、所蔵冊数に占める閉架書庫の割合が大きいのが特徴となっています。現施設の収容能力は約14万冊であり、蔵書数が収容能力を超え、施設の狭隘化が進んでいます。

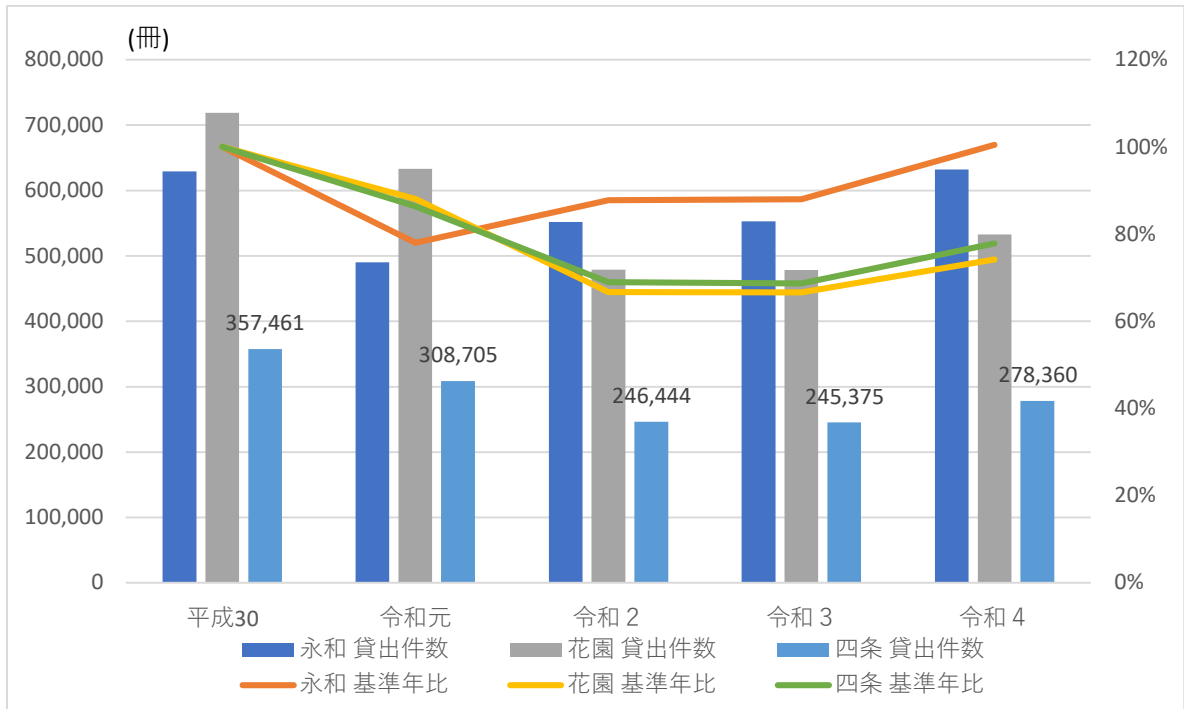
【図表25】市内図書館別蔵書数

	図書館			分室		移動 図書館	計
	永和	花園	四条	石切	大蓮		
蔵書件数	169,592	375,768	154,616	20,858	111,720	31,894	864,448

## ② 貸出件数

現四条図書館の年間貸出件数は 278,360 冊(令和 4 年度)であり、永和図書館の約半数程度となっています。利用者数はコロナ禍以降減少しています。

【図表26】市内図書館の貸出件数推移(折れ線は、平成30年度を100%とする)



出典：図書館年報 令和4年度統計(東大阪市立図書館)

### ③ 貸出件数

現四条図書館の年間貸出件数は 278,360 件であり、うち児童書は 85,748 件となっています。

分類別貸出件数については、各図書館で大きな差異は見られませんが、現四条図書館では一般書では「文学」の貸出件数に占める割合が他館と比較してやや少なく、また、児童書では「絵本」の貸し出し割合が他館と比較してやや多くなっています。

【図表27】市内図書館の分野別貸出件数

#### 《一般書》

	総記	哲学	歴史地理	社会科学	自然科学	技術	産業	芸術	言語	文学	雑誌	AV資料	郷土行政	郷土作家	合計
永和図書館	5,681	19,895	21,895	33,138	26,244	43,493	8,070	41,295	4,916	180,272	18,819	16,967	380	81	421,146
%	1.3	4.7	5.2	7.9	6.2	10.3	1.9	9.8	1.2	42.8	4.5	4.0	0.1	0.0	100
花園図書館	3,930	13,251	21,479	24,040	21,784	39,735	8,919	29,910	2,772	147,847	21,695	16,426	151	15	351,954
%	1.1	3.8	6.1	6.8	6.2	11.3	2.5	8.5	0.8	42.0	6.2	4.7	0.0	0.0	100
四条図書館	2,053	8,373	12,166	13,526	12,329	20,282	4,193	16,459	1,924	75,470	10,952	14,591	141	153	192,612
%	1.1	4.3	6.3	7.0	6.4	10.5	2.2	8.5	1.0	39.2	5.7	7.6	0.1	0.1	100
石切分室	369	1,977	1,966	2,621	2,450	6,655	924	4,553	358	18,403	2,512	736	49	16	43,589
%	0.8	4.5	4.5	6.0	5.6	15.3	2.1	10.4	0.8	42.2	5.8	1.7	0.1	0.0	100
大蓮分室	549	2,588	3,683	4,458	4,316	9,906	2,006	10,487	596	33,369	5,963	831	4	1	78,757
%	0.7	3.3	4.7	5.7	5.5	12.6	2.5	13.3	0.8	42.4	7.6	1.1	0.0	0.0	100
移動図書館	641	2,538	2,766	4,152	4,887	12,445	1,633	10,537	350	35,723	4,833	475	6	1	80,987
%	0.8	3.1	3.4	5.1	6.0	15.4	2.0	13.0	0.4	44.1	6.0	0.6	0.0	0.0	100

#### 《児童書》

	総記	哲学	歴史地理	社会科学	自然科学	技術	産業	芸術	言語	文学	絵本	合計
永和図書館	1,734	3,426	8,733	4,972	17,315	5,785	1,978	41,720	2,406	38,073	84,346	210,488
%	0.8	1.6	4.1	2.4	8.2	2.7	0.9	19.8	1.1	18.1	40.1	100
花園図書館	1,090	3,579	8,314	3,611	16,528	6,277	1,144	25,121	2,395	38,180	74,131	180,370
%	0.6	2.0	4.6	2.0	9.2	3.5	0.6	13.9	1.3	21.2	41.1	100
四条図書館	580	1,328	3,636	1,754	7,173	2,721	499	14,579	1,039	13,455	38,984	85,748
%	0.7	1.5	4.2	2.0	8.4	3.2	0.6	17.0	1.2	15.7	45.5	100
石切分室	123	342	1,039	532	1,977	708	153	7,370	281	4,107	11,203	27,835
%	0.4	1.2	3.7	1.9	7.1	2.5	0.5	26.5	1.0	14.8	40.2	100
大蓮分室	299	768	2,197	891	3,984	1,250	305	16,084	537	7,390	20,138	53,843
%	0.6	1.4	4.1	1.7	7.4	2.3	0.6	29.9	1.0	13.7	37.4	100
移動図書館	630	749	1,446	1,199	3,589	1,342	274	18,709	603	7,470	25,003	61,014
%	1.0	1.2	2.4	2.0	5.9	2.2	0.4	30.7	1.0	12.2	41.0	100

出典：図書館年報 令和4年度統計(東大阪市立図書館)

## 2. 第二次東大阪市立図書館基本構想における位置づけ等

### (1) これからの市立図書館の方向性とコンセプト

第二次東大阪市立図書館基本構想では、東大阪市立図書館が向かう方向性として、以下の3点が示されています。新四条図書館においても、「現資産とデジタルを活用した全域サービス」の提供を前提として、「訪れたいくなる地域性特色の打ち出し」、「新たな図書館ファンの獲得」に取り組むものとします。

【図表28】東大阪市立図書館が向かう方向性



出典:第二次東大阪市立図書館基本構想

## (2) 新四条図書館のサービス方針

### ① 各館それぞれの特色における新四条図書館の特色

第二次東大阪市長立図書館基本構想では、各館の特色を打ち出すこととしており、その中で新四条図書館の特色は、以下のように示されています。

【図表29】地域性を踏まえた新四条図書館の特色

#### 四条図書館：将来をつくる子どもたちを、まちのみんなで育てる

四条図書館は、これまでおはなし会の開催や「ベビータイム」の実施など、子育て支援サービスに関する取り組みを実施してきました。そして、今後は児童相談所等との複合化を予定していることから、新四条図書館は「子ども」というテーマをより強く押し進めていきます。

これからの未来を担う次世代を育てるサービスを提供していくためには、まずは子どもが自然と来なくなる、わくわくする図書館づくりが必要です。また、子どもを取り巻く状況や少子高齢化など、時代とともに社会全体も変化しており、子育て支援の対象として、親だけでなく子どもを見守る祖父母や、教育関係者など、普段子どもに関わる人々も対象としていくことが必要です。さらには、普段子どもに関わりを持っていなくても、関心のある人を巻き込む仕組みをつくりながら、「まちのみんなで子どもを育てる」という方針でサービスを検討し、市のめざす「若者・子育て世代に選ばれるまちづくり」に寄与します。

出典：第二次東大阪市長立図書館基本構想

## ② 基本サービスの提供

第二次東大阪市立図書館基本構想において、基本サービスの項目として以下のように示されています。新四条図書館においてもこれらのサービスについて提供するものとします。

【図表30】図書館の基本サービス

<p>【資料収集、収集(蔵書)】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・資料の質的な充実</li> <li>・寄贈資料の活用</li> </ul> <p>【閲覧、貸出、予約、レファレンス等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・閲覧環境の充実</li> <li>・レファレンスサービスの充実</li> </ul> <p>【読書バリアフリー】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大活字本、点字図書、LLブック、デージー図書の収集</li> <li>・貸出、郵送及び対面朗読サービス</li> <li>・読書バリアフリーとしての電子図書館利用促進</li> </ul> <p>【情報発信、PR等の強化】</p> <p>【ICタグによる資料管理】(検討)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・配架場所の分散化</li> <li>・計画的、効率的な実施</li> <li>・貸出、返却機会の拡充</li> <li>・団体貸出の強化</li> </ul>
--	---

出典:第二次東大阪市立図書館基本構想

## ③ 各世代へのサービスの提供

第二次東大阪市立図書館基本構想に位置付けられる各世代へのサービスは、以下のように示されています。また、四条図書館については、「子育て世代に注力したサービス」が特色として位置づけられています。

【図表31】各世代に対する図書館サービス

世代	サービスのテーマ	主な図書館
乳児期・幼児期	ブックスタートから始まる、本の世界との出会い	全館
子育て世代と子どもに関わる人	誰もが子育てしやすい環境を	四条図書館
学齢期	成長とともに本と出会い、豊かに学び、育つ	全館
青少年・大学生	若い世代が行きたいと思う図書館	全館
就業者	ビジネスパートナーとしての図書館	永和図書館
高齢者・障害者等	図書館はどなたの心にも寄り添う情報拠点	全館

出典:第二次東大阪市立図書館基本構想

## 3. 新四条図書館の基本方針

### (1) 基本理念

「子どもをテーマに市民がつながる場」

(仮称)こどもセンターとの複合施設である新四条図書館は、子どもと子育て世代が中心軸となる図書館として整備します。子どもをキーワードに、市民の様々な交流や活動が生まれる場として、(仮称)こどもセンターが有する相談機能や子育て支援機能との相乗効果により、まちづくりの拠点となることをめざします。

### (2) 整備基本方針

#### ① 明るく開放的で温かみを感じられる図書館

新四条図書館は、子どもや子育て世代をはじめ、併設される子ども機能の利用者を含む誰もが訪れたいくなるような場所とします。快適な閲覧席、本が探しやすい、読みやすい配光と調光、ベビーカーも安心して通れる書架間通路、木の温かみを感じる内装やインテリアなど、明るく開放的で温かみを感じられる空間づくりに取り組みます。

また、子どもや子育て世代以外の様々な人に利用していただける新四条図書館をめざします。

その他、本の貸出、返却がスピーディーに行えるなど、図書館利用者がより便利に利用できる IC タグなどの導入について、費用対効果の検証も踏まえ、検討します。

#### ② 子どもと子育て世代が使いやすい図書館

新四条図書館は、子どもが見たい、知りたいと興味を持ち、自然と来たいくなる場所として整備します。収集資料における児童書の割合を高めるとともに、子どもがワクワクする空間や仕掛けを作ることで、読書し、学ぶ場所だけでなく、楽しめる場所とします。

子どもの声や親子の会話を許容できるよう、また、子どもに関わる様々な人を含め誰もが訪れたいくなるよう、閲覧エリア内でのゾーニングを工夫します。

対象とする子どもの年齢層は、乳幼児期から小学生までとして設定します。乳幼児であれば絵本の読み聞かせ、小学生であれば友達と一緒に本を読む、調べものをするなど、年齢層に合わせたニーズに応えられる施設とします。

#### ③ ゆったりと過ごせる、居心地の良い図書館

新四条図書館では、閲覧エリアの床面積を拡張し、十分な広さを確保することで、利用者が寛ぎながら、読書を満喫できるように閲覧席の数を増やします。

また、本の魅力を引き出せる配架方法や棚づくりの工夫や、お薦めの本に興味を持ってもらえるようなレファレンスサービスの充実に取り組むなど、様々な本と出会い、思わぬ読書体験ができるような場を実現します。

また、より多くの本を収蔵する場ではなく、より多くの本が活用される図書館となることをめざし、収集資料の質的な充実を図るとともに、開架中心の資料収蔵とします。

### (3) 整備する主な諸室等

前掲の整備基本方針を実現するために、新四条図書館で整備する主な諸室等は、以下のとおりとします。

【図表32】整備基本方針を実現するために整備する主な諸室等

整備基本方針	整備する主な諸室等
①明るく開放的で温かみを感じられる図書館 ・快適な閲覧席 ・木を使ったインテリア ・本が探しやすく、読みやすい配光と調光	●閲覧エリア ●書架エリア ●学習室
②子どもと子育て世代が使いやすい図書館 ・子どもがワクワクする空間や仕掛け ・子どもの声や親子の会話を許容するゾーニング ・年齢層に合わせたニーズへの対応	●閲覧エリア(子ども) ●プレイエリア ●グループスペース
③ゆったりと過ごせる、居心地の良い図書館 ・閲覧エリアの拡張 ・閲覧席数の増加 ・ゆったりと本を読める空間 ・開架中心の資料収蔵	●閲覧エリア ●書架エリア ●静寂読書室 ●ブラウジングエリア
④その他	●カウンター ●閉架書庫 ●事務室、作業室、荷捌室、倉庫、会議室、休憩室、更衣室、印刷室



## 4. 新四条図書館の施設整備計画

### (1) 蔵書計画等

#### ① 蔵書計画

新四条図書館の蔵書収蔵能力は、約8万冊として設定します。

現四条図書館の蔵書冊数は約15万冊ですが、そのうち利用頻度が低い蔵書などを除き、新四条図書館に移行するものとします。

「子どもをテーマに市民がつながる場」というコンセプトの実現に向けては、蔵書の廃棄・新規購入を通じて、蔵書に占める児童書の冊数を約3万冊とし、構成比を約40%まで高めることとします。

【図表33】新四条図書館の蔵書収蔵能力

	現状		新四条図書館（収蔵能力）	
	冊数	構成比	冊数	構成比
蔵書数計	154,616 冊		約 80,000 冊	
一般書	94,043 冊	61%	約 37,000 冊	46%
児童書	46,764 冊	30%	約 30,000 冊	38%
雑誌等	13,809 冊	9%	約 13,000 冊	16%

#### ② 開架・閉架計画

新四条図書館では、蔵書数そのものは削減しますが、開架冊数(自由に手に取って見ることができる本棚に並べる本の冊数)を約5.5万冊とし、現状の約4.8万冊より増加させることで、「より多くの本が利用されている図書館」の実現に向けて取り組みます。

【図表34】新四条図書館の開架・閉架計画

	現状		新四条図書館	
	冊数	構成比	冊数	構成比
開架	約 48,000 冊	32%	約 55,000 冊	69%
閉架	約 102,000 冊	68%	約 25,000 冊	31%

### ③ 書架エリア・閉架書庫の規模

新四条図書館では、開架冊数(約5.5万冊)に対する書架エリアの面積を約490㎡として設定します。その他の閲覧席などの閲覧エリアを含めた面積は、約700㎡を確保します。

【図表35】書架エリア・閉架書庫の規模設定

	冊数	1㎡あたり冊数	貸出係数	通路等余裕度	想定面積
蔵書冊数	80,000 冊				
開架冊数	55,000 冊				490 ㎡
一般書	30,000 冊	216 冊/㎡ ※1	0.8	2	222 ㎡
児童書	20,000 冊	129 冊/㎡ ※2	0.8	2	248 ㎡
雑誌等	5,000 冊	400 冊/㎡	0.8	2	20 ㎡
閉架冊数	25,000 冊	650 冊/㎡	1	1.25	48 ㎡

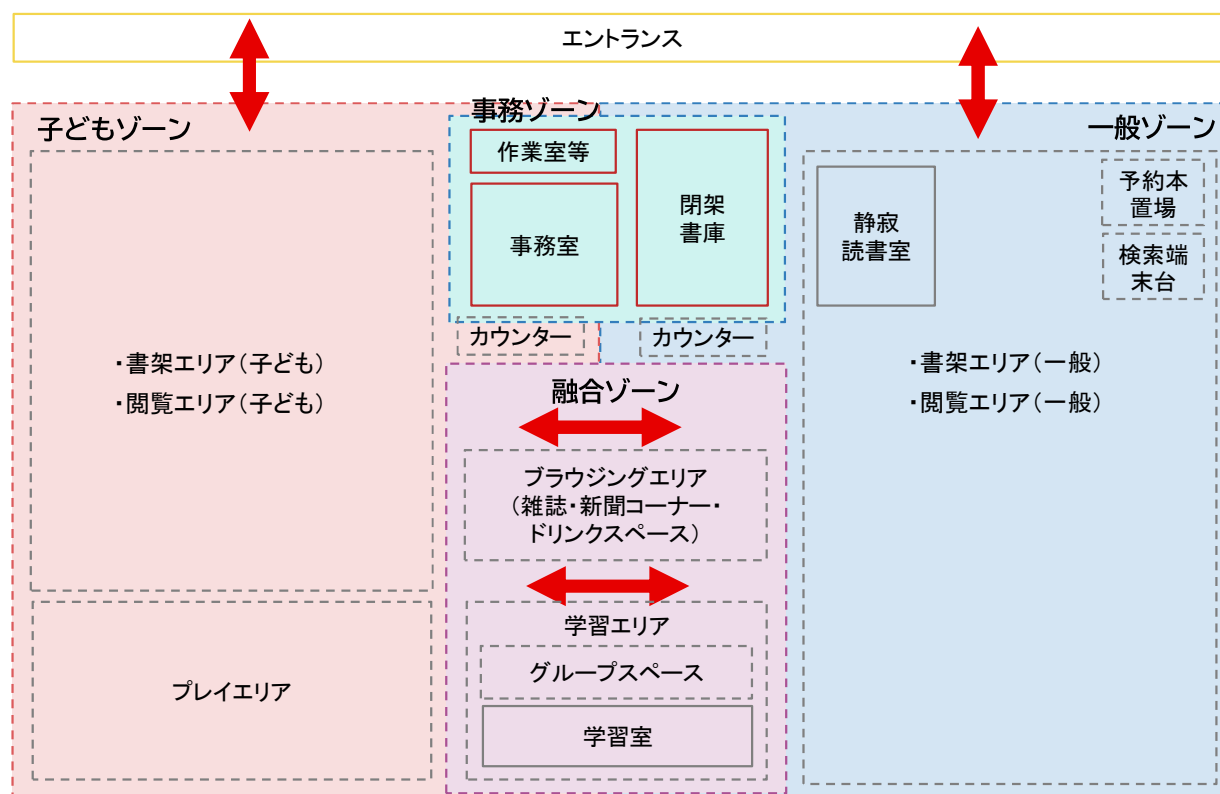
※1:書棚5段想定 ※2:書棚3段想定

## (2) 機能配置

新四条図書館の必要諸室について、想定される利用者動線や機能間の連携などの方針は、以下の4ゾーンに整理し、下図のとおりとします。

新四条図書館は、一般書を配架し、閲覧する場である「一般ゾーン」と児童書を配架し子どもたちのための空間である「子どもゾーン」、それらを接続する「融合ゾーン」、職員の勤務する「事務ゾーン」の4つで構成します。

【図表36】新四条図書館の機能構成図



### (3) 諸室・設備の整備方針

#### ① 一般ゾーン

##### i. 書架・閲覧エリア

- ・ これまで図書館をあまり利用してこなかった層にも、関心をもって利用いただけるように、明るく開放的に感じられるモダンなデザインを取り入れた、快適な閲覧空間づくりを行います。
- ・ 閲覧エリアは、十分な席数を確保するとともに、席の間隔にゆとりを持たせます。また、本が探しやすく、読みやすい最適な照明により、読書を楽しめる空間とします。
- ・ 開架書架は、本の魅力が伝わるように配架方法など本の見せ方が工夫できる書架を設置します。

【図表37】主な諸室等

書架エリア (一般)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 図書の分野ごとに応じた書架を設置します。</li> <li>・ 開架書架は、転倒防止措置を行います。</li> </ul>
閲覧エリア (一般)	<p>【共通】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 館内照明は、明るく開放的に感じられ、居心地の良い、落ち着いた雰囲気となるよう、直接照明と間接照明を組み合わせ、各エリアに応じて最適な照明とします。</li> <li>・ 書架間を含め、ベビーカーが安心して移動できる通路幅を確保します。</li> </ul> <p>【一般】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 利用者が日常的に目にするような展示スペースを設置します。</li> <li>・ 45席以上のソファ、スツール等を設置します。</li> </ul>
静寂読書室	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 利用者が静かに読書をすることができる静寂読書室を設置します。</li> </ul>
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ カウンター、予約本置き場、検索端末台を設置します。</li> </ul>

## ② 子どもゾーン

### i. 書架・閲覧エリア

- ・ 乳幼児から小学生までを対象とした子ども向け閲覧エリアを整備します。ソファ、スツール等を配置し、子どもたちが楽しめる工夫を凝らした空間とします。
- ・ 一般向け閲覧エリアからの視認性に配慮して配置するなど、連続性のある空間として整備します。子どもが声を出して、自由に動き回ることができるエリアとしますが、一般向け閲覧エリアにおける良好な静穏性にも配慮したしつらえとします。
- ・ 約2万冊の開架可能な計画とし、子どもが利用しやすい、対象年齢に応じた書架を整備する。子どもたちが本に関心を持ちやすい工夫を凝らした配架を行います。

【図表38】主な諸室等

書架エリア (子ども)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子ども向けエリアの開架書架は、対象年齢に応じた高さのものを設置します。</li> <li>・絵本等について可能な限り表表紙を見せる配架ができるように検討します。</li> <li>・開架書架は、転倒防止措置を行います。</li> </ul>
閲覧エリア (子ども)	<p>【共通(再掲)】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・館内照明は、明るく開放的に感じられ、居心地の良い、落ち着いた雰囲気となるよう、直接照明と間接照明を組み合わせ、各エリアに応じて最適な照明とします。</li> <li>・書架間を含め、ベビーカーが安心して移動できる通路幅を確保します。</li> </ul> <p>【子ども】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子ども向けエリアで子どもが声を出しても、一般向けエリアにおいて読書環境として良好な静粛性が保たれるように整備します。</li> <li>・子ども向けエリアは、乳幼児から小学生までを対象とします。</li> <li>・子ども向けに適切なソファ、スツール等を必要数設置します。また、書架やソファ等の設備は、子どものケガを軽減できる柔らかく角の無い仕様とします。</li> <li>・子ども向けエリアに乳幼児が自由に動き回れるスペースを設置するとともに、子どもが年齢に応じて安全に遊べる段差や遊具の設置などを検討します。</li> <li>・保護者の見守りスペース、ベビーカー置き場を設置します。</li> </ul>
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学生等の利用を想定したカウンターを設置します。</li> </ul>

### ii. プレイエリア

- ・ 子どもゾーン内に、子どもや子育て世代を主な対象とした絵本等の読み聞かせなどの企画サービスを行うための空間として、プレイエリアを設けます。プレイエリアは、独立した部屋又は、書棚等で囲まれた空間として設置します。

### ③ 融合ゾーン

- i. ブラウジングエリア(雑誌・新聞コーナー・ドリンクスペース)、
- 融合ゾーン内には、のんびりと寛ぎ、飲み物を飲みながら雑誌を読むなど、誰もがゆったりとした時間を過ごせる場を設置します。

【図表39】主な諸室等

ブラウジングエリア	<ul style="list-style-type: none"> <li>雑誌や新聞、視聴覚資料のための書架を設置します。</li> <li>書架には、転倒防止措置を行います。</li> <li>ゆったり寛ぐことのできるようにソファやドリンクホルダー等を適切に配置します。</li> </ul>
-----------	---

- ii. 学習エリア
- 融合ゾーン内に、学習を行える学習室と、グループワークを行えるグループスペースを設置します。
  - 学習室は、特定の用途にしか使用できないものではなく、可変性に配慮したしつらえとし、曜日や時間帯によっても主な利用者層を変える部屋として設置します。

【図表40】主な諸室等

学習室	<ul style="list-style-type: none"> <li>20人程度が利用できる学習室を設置します。</li> <li>利用状況が部屋の外から分かるように工夫します。</li> <li>学習以外にも利用できるよう、汎用性と利便性の高い部屋とします。</li> <li>学習室内に間仕切りにより、2～4人程度で使用できる対面朗読室を1ヶ所設置します。</li> <li>学習室は、主に昼間は小・中学生及び高校生、夕方以降は大学生及び社会人が利用する想定で設置します。</li> </ul>
グループスペース	<ul style="list-style-type: none"> <li>6～8人程度の利用者がグループワークをすることができる空間を、融合ゾーン内に設置します。</li> </ul>

#### ④ 事務ゾーン

- ・ 職員の執務するスペースとして事務室、作業室、荷捌室、倉庫、会議室、休憩室、更衣室、印刷室等の諸室を設置するものとします。また、約3万冊を収蔵可能な閉架書庫を設置します。

【図表41】主な諸室等

事務室 作業室 荷捌室 倉庫 会議室 休憩室 更衣室 印刷室	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 図書館の運営に必要な事務室として、10人程度が執務を行う事務室を設置します。また、事務室内若しくは隣接した場所に、作業室及び荷捌室を設置します。</li> <li>・ 事務室内に図書館の空調、照明等の集中管理を行うための設備、館内案内を行える放送設備及び館内にBGMを流せる音響設備を設置します。</li> <li>・ 事務室に隣接した場所に、倉庫、会議室、休憩室、更衣室、印刷室を設置します。</li> </ul>
閉架書庫	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 図書館内に約3万冊が収容可能な閉架書庫(集密書庫)を設置します。</li> <li>・ 閉架書庫は、事務室や書架エリアとの動線を踏まえて設置します。</li> <li>・ 火災時の対策として、二酸化炭素消火設備以外の最適な消火設備を備えます。</li> <li>・ 温湿度管理を行い、本の適切な保存環境に配慮した設備とします。</li> <li>・ 閉架書架には、転倒防止措置を行います。</li> <li>・ 大型紙芝居、新聞、雑誌等を保管できる書架を配置します。</li> </ul>